

2024年08月27日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【パウエルFRB議長の講演】

先週(2024年8月22日~24日)、恒例の8月下旬の「ジャクソンホール会議」が開催されました。

+++++

「ジャクソンホール会議」とは、米国のカンザスシティ連邦準備銀行が、ワイオミング州のジャクソンホールで、毎年夏に開く金融・経済シンポジウムのこと。

過去の例では、2010年8月に、当時のバーナンキFRB議長が、量的金融緩和第2弾(QE2)に踏み切ることを示唆する講演を行い、金融市場に影響を与えた。

+++++

今年(2024年)の「ジャクソンホール会議」が、特に注目されたのは、米国の今後の利下げに関して、何かしらの示唆があるのではないか、と予想する向きが多かったからです。

+++++

+++++

先週(2024年8月23日)の「ジャクソンホール会議」の講演で、パウエルFRB議長は、「政策金利を引き下げる時が来た」と述べた。

利下げのタイミングとペースは今後入手するデータによる旨も述べた。

次回(9月)のFOMCでの利下げは、ほぼ確実となった。

マーケット(外国為替市場)は、「ドル売り」に反応した。

+++++

+++++

パウエルF R B議長の発言で、注目する点は、今年（2024年）11月の大統領選挙の前であっても、利下げを敢行する姿勢を見せたこと。

共和党の大統領候補のトランプ氏と一部の共和党議員は、今年（2024年）11月の大統領選挙の前に、利下げを行うことは、選挙日の前に景気を潤し、民主党を有利にすることになる、と、F R Bにプレッシャーをかけていた。

パウエルF R B議長は、こういった声に対して、毅然とした態度を示し、F R Bの独立性を守った、と言える。

++++
++++

パウエルF R B議長は、この講演で、
「労働市場環境がこれ以上冷えることを、求めても歓迎してもいない」
と発言した。

米国失業率は、過去1年間で3.4%から4.3%に上昇しており、雇用情勢の悪化を懸念している旨を強調した。

当然のことながら、雇用情勢の悪化は、「利下げの根拠」になり得る。

++++
++++

今後、注目される点は、利下げのペース（スピード）だろうが、パウエルF R B議長は、今後入手するデータによる旨述べているので、これから発表される米国経済指標が大いに注目されることになる。

特に、米国雇用統計の重要性が、再確認されることになるのだろう。

++++
++++

（2024年08月27日東京時間14：55記述）